



日本の国土は、亜寒帯から亜熱帯にまたがる大小の島々からなり、そこには屈曲に富んだ海岸線と起伏の多い山岳など変化に富んだ地形や各地の気候風土に育まれた多様な動植物相が見られます。

「モニタリングサイト 1000」では、このような日本列島の多様な生態系を、高山帯、森林・草原、里地、湖沼、湿原沿岸・浅海域、小島嶼に分け、あわせて 1000 か所程度のモニタリングサイトを設置しており、2003 年度より調査を実施しています。基礎的な環境情報の収集を長期にわたって継続することで、日本の自然環境の質的・量的な劣化を早期に把握し、得られた成果を保全施策や学術研究に活用することを目的としています。

森林・草原のモニタリングでは、樹木を長期的な環境変化の指標として、地表徘徊性昆虫を短期的な環境変化の指標として、鳥類を広域的な環境変化の指標として取り上げ、20 のコアサイト、28 の準コアサイト、約 420 の一般サイトで調査を行なっています。

- ・コアサイト： 毎年調査を行ない、毎木調査、落葉落枝・落下種子調査、地表徘徊性甲虫調査、鳥類調査を実施
- ・準コアサイト： 5年に一度(一部は毎年)調査を行ない、毎木調査、鳥類調査を実施
- ・一般サイト： 5年に一度調査を行ない、鳥類調査を実施

鳥類調査では、各サイトに 5 か所の定点を設置し、繁殖期と越冬期にそれぞれ 2 日間かけて 4 回(1 地点 1 回あたり 10 分間)、周囲に生息している鳥類の個体数調査を実施しています。

「陸生鳥類調査情報」は、結果の速報や関連情報をお知らせするために、2009 年より毎年 2 回発行しています。バックナンバーは以下よりご覧いただくことができます。

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/index.html>

モニタリングサイト1000 陸生鳥類調査 情報

2024年 9月号 Vol. 16 No. 1



Urosphena squameiceps
Photo by Toshifumi Miki

結果速報

モニタリングサイト1000 2023年度越冬期 一般サイト結果速報 奴賀俊光・森本元（日本野鳥の会）

全国約1,000か所のモニタリングサイトのうち、森林・草原の一般サイトは約420か所を占める重要な分野です。調査には、多くの市民調査員のみなさまにご協力いただいております。森林・草原の一般サイトでは、概ね5年に1度、陸生鳥類調査（繁殖期および越冬期）および植生概況調査（繁殖期のみを実施）を行っています。2023年度の越冬期は、調査を63サイト（森林51サイト、草原12サイト）にお願いしました。そのうち、依頼した中から調査を実施できなかったサイトなどを除き、現時点でデータが集まり集計が完了している森林47サイト、草原10サイトの計57サイトのデータを用いて、中間報告いたします。

越冬期に記録された鳥類（2023年度）

合計102種（森林88種、草原63種）の鳥類が記録されました。これは2022年と同様に、2018年から2023年までの最近6年間（過去5年+今年）の記録種数（102種～128種）の中では、最も少ない種数でした。理由としては、森林サイトの記録種数は88種（過去5年平均は94種）で約6%減だったことに加え、草原サイトは63種（同平均79種）で約20%減と差が大きかったこと、つまり両サイトの減少のうち特に草原サイトでの記録種数が例年よりも少なかったことに起因します。これは、草原サイトは調査サイト数が少ないため毎年の記録種数に変動がありますが、草原サイト間で異なる種があまり記録されなかったことによります。草原サイトの変動の大きさを除き森林サイトのみで考えれば、今年度の結果は過去5年の範囲内に収まっており、極端に種数が少ない、という訳ではなさそうです。

表 1. 2023年度越冬期の森林サイト(n = 47)の上位10種

a) 出現率			b) 優占度		
順位	種名	出現率	順位	種名	優占度
1	ヒヨドリ	100.0	1	ヒヨドリ	19.31
2	ハシブトガラス	97.9	2	メジロ	9.37
3	シジュウカラ	93.6	3	アトリ	7.24
4	コゲラ	89.4	4	エナガ	7.03
5	ヤマガラ	78.7	5	シジュウカラ	6.58
6	エナガ	76.6	6	ハシブトガラス	5.95
7	カケス	74.5	7	ヤマガラ	4.51
8	メジロ	72.3	8	イカル	2.82
9	ウグイス	55.3	9	ヒガラ	2.56
10	カワラヒワ	48.9	10	コゲラ	2.54
	ジョウビタキ	48.9			

表 2. 2023年度越冬期の草原サイト(n = 10)の上位10種

a) 出現率			b) 優占度		
順位	種名	出現率	順位	種名	優占度
1	ハシブトガラス	100.0	1	エナガ	11.41
2	トビ	90.0	2	ハシブトガラス	8.55
3	カワウ	80.0	3	ハシブトガラス	7.86
	ハシブトガラス	80.0	4	スズメ	6.41
5	キジバト	70.0	5	コハクチョウ	5.84
	ヒヨドリ	70.0	6	ハシブトガラ	4.79
7	エナガ	60.0	7	ツグミ	3.97
	カワラヒワ	60.0	8	ヒヨドリ	3.27
	コゲラ	60.0	9	カワラヒワ	3.26
	シジュウカラ	60.0	10	カルガモ	3.05
	ツグミ	60.0			
	モズ	60.0			

出現率と優占度

次に、森林サイト、草原サイトにおける出現率、優占度の上位種を表1、2に示します（出現率：ある種の出現サイト数 ÷ 調査サイト数 × 100、優占度：サイトでのある種の個体数 ÷ 総個体数 × 100を平均したもの）。

モニタリングサイト1000の一般サイトは5年かけて全サイトを調査します。調査サイトがほぼ同じであるちょうど5年前の2018年の結果（表3）と今年度の結果を比べてみます。森林サイトの出現率10位以内の種について、過年度の順位を見ると、多少の順位の変動はあるものの、種構成はほぼ同じです。2023年度は、2018年度と比べてシロハラとルリビタキが10位以内から外れ、カケス、カワラヒワ、ジョウビタキが10位以内に入りました。ジョウビタキ以外の種は10位以内に入ったり入らなかったりが続いている種なので、年変動の範囲内と考えられます。ジョウビタキについては、10位以内に入ったのは2008年以来で、最近5年間（2018年～2022年）は13位から24位でした。近年の出現率をみると（図1）、2020年度以降は継続して増加傾向にあることがわ

表 3. 5年前（2018年度）越冬期の出現率の上位10種

a) 森林(n = 43)			b) 草原(n = 12)		
順位	種名	出現率	順位	種名	出現率
1	ヒヨドリ	100.0	1	ハシブトガラス	100.0
2	ハシブトガラス	93.0	2	ハシブトガラス	91.7
3	シジュウカラ	90.7	3	ヒヨドリ	83.3
	ヤマガラ	90.7	4	カワラヒワ	66.7
5	コゲラ	88.4	5	シジュウカラ	58.3
6	エナガ	74.4		スズメ	58.3
7	メジロ	65.1		ツグミ	58.3
8	シロハラ	60.5		トビ	58.3
9	ウグイス	58.1		ホオジロ	58.3
	ルリビタキ	58.1		キジバト	58.3

かります。ただし2023年度は5年前の2018年度とほぼ同値です(図1)。ジョウビタキは、冬鳥として低地から山地の積雪の少ない地域に全国的に渡来します。越冬期の生息環境は、森林というよりも少し開けた林縁や農耕地、公園などになるため(高野 2007)、森林サイトの中にはジョウビタキの主な生息環境とは少し異なる地点もあります。今回、たまたま他の種の出現率の変動との兼ね合いで10位にランクインした可能性も考えられますが、一方で、近年、ジョウビタキが本州各地の高原などで繁殖が続々と確認されてきていること(林・山路 2014)が影響している可能性も考えられます。国内での個体数の増加、東アジア圏(国内外)での繁殖分布の拡大、それらに伴う越冬地域での確認例の増加が起こっている可能性が考えられます。モニ1000一般サイトでの繁殖期のジョウビタキの記録も、2020年度から標高1000m付近のサイト(長野県、岐阜県、鳥取県)で数例確認されています。本モニタリングでは越冬期も繁殖期もジョウビタキの動向に注意していきたいと思います。



ジョウビタキ(写真: 奴賀俊光)

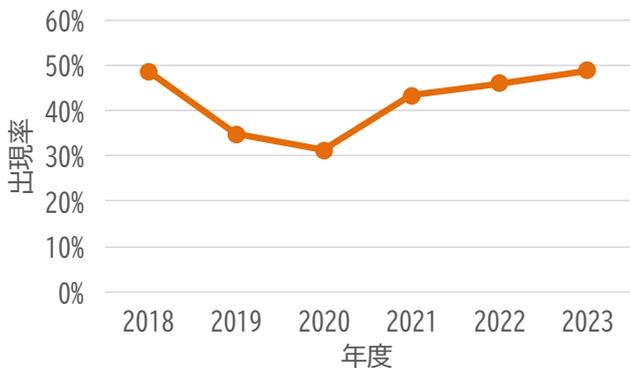


図1. 過去6年間のジョウビタキの出現率

草原サイトについては、森林サイトに比べてサイト数が少ないため毎年の種構成や順位の変化が大きく比較は難しいことがわかっています。ほぼ同じサイトを調べている5年前(2018年度)と比べると、森林サイトと同様に順位の変動はありますが、2023年度の10位以内の12種中8種が2018年度も10位以内にはいっており(表2、3)、出現率が上位10位に入る種の構成は概ね同じでした。

3期分の個体数変動

モニタリングサイト1000陸生鳥類調査の一般サイトでは、5年かけて全サイト(約420サイト)を調査し、1期分とします。2022年度で、同じ調査方法による3期分(調査方法が異なった第1期を除き、第2期2008～2012年、第3期2013～2017年、第4期2018～2022年)の調査が終了しました。2024年度中には、3期分のとりまとめ報告書が公表される予定です。そこで、今回は3期分のデータを使って、いくつかの種の個体数変動をみてみたいと思います。

第4期の越冬期の森林サイトでの出現率の増加が確認されてきた種(キバシリ、亜種リュウキュウサンショウクイ、ミソサザイ



ミソサザイ(写真: 三木敏史)

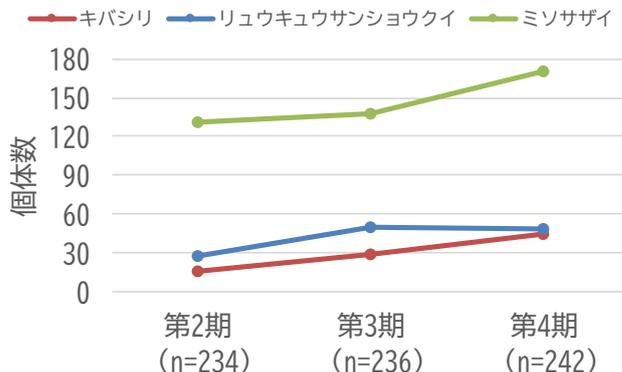


図2. キバシリ、リュウキュウサンショウクイ、ミソサザイの個体数変動(nはサイト数)

イ)について、各期ごとの全サイトの合計個体数を図2に示します。キバシリは近年分布が拡大傾向(2023年8月号 Vol. 15 No. 1)、リュウキュウサンショウクイは分布域が北上中(2022年8月号 Vol. 14 No. 1)、ミソサザイは環境の変化による増加傾向(2021年9月号 Vol. 13 No. 1)という記事をこれまでのニュースレターで書いてきましたが、3期分の個体数の変化からも、3種とも増加傾向にあることがわかりました。第5期もこれらの種の増加傾向が続くのか、注目していきたいと思います。

調査へのご協力ありがとうございました

モニ1000第2期から第4期までの総合とりまとめ報告が2024年度中に発行される予定です。陸生鳥類の全国的な分布の変化や個体数の増減とその要因について解析がされています。これは調査員の皆様のご協力の成果です。今回、ジョウビタキについての記事を書きましたが、これまで冬鳥だったジョウビタキが各地で繁殖し始め、また次の5年後のとりまとめの時にはどのような状況になっているのか、今後もモニタリングサイト1000の長期調査を継続していき、鳥類の変化の動向を監視していきたいと思います。モニタリングの実施には、大勢の人々のご協力による調査継続が欠かせません。引き続き、皆様のお力添えをよろしく願います。

2023年度越冬期の一般サイト調査には、77名の皆様のご協力をいただきました。最後にお名前を記し、お礼に代えさせていただきます(敬称略、五十音順)。

阿部智、伊藤恭博、井奥恵三、稲田菊雄、猿子正彦、岡崎誠、掛下尚一郎、関海月、関根一広、岩本孝、吉井大、吉井恵子、吉田良平、宮原明幸、溝口文男、荒井浩、高井正明、高橋康太、高美喜男、今野美和、今野怜、佐川哲也、山田大志、山本貴仁、市川栄作、寺本明広、室瀬秋宏、篠原盛雄、小笠原正博、小栗克彦、小林繁樹、沼野正博、城石一徹、城石麻央、森下英昭、森茂晃、森眞、深澤敬、深澤優子、水越文孝、水口俊太、水野寛美、星野由美子、西原直、斉藤充、川崎康弘、前田佑惟、前田和浩、大川庫弘、大津賀真紀子、大塚マミ子、大塚祐二、大島孝之、谷上和年、谷川昭司、池田憲治、中西正和、中西和夫、中村正男、田代憲次、渡辺真美恵、渡辺健三、渡辺靖夫、奴賀俊光、嶋孝弘、東定司、藤原奈千、尾崎高博、片岡海里、矢本賢、柳田一郎、柳田直子、葉山政治、揉井千代子、櫻井紗希、齋藤敏郎。

引用文献

林正敏・山路公紀. 2014. 八ヶ岳周辺におけるジョウビタキの繁殖と定着化. 日本鳥学会誌, 63 (2): 311-316.
高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 日本野鳥の会, 東京.

結果速報

2023年度 コア・準コアサイト鳥類調査 越冬期結果報告

植村慎吾（バードリサーチ）

冬鳥の大きな群れの記録なし

2023年度の越冬期はコア13サイト、準コア5サイトの計18サイトで調査を行いました。苫小牧サイトでは除雪がない場所で積雪が深く、2回目の調査を実施できなかったほか、野幌サイトでは調査者の都合により調査を実施できませんでした。

越冬期は年変動が大きく、記録種数、バイオマス(記録鳥類の総体重)共に、年によって多かたり少なかたりすることがあります。今年はいかるの群れが記録された大山沢サイト、シロハラが記録された市ノ又サイトなどでバイオマスの値が平年と比べて大きくなりました(表1)。

表 1. 2009-23年度越冬期コア/準コアサイトのバイオマス(kg/10ha)
2017年度の和歌山サイト、2022年度の苫小牧サイトでは1回しか調査を行っておらず、過小評価である

サイト名	越冬期バイオマス(kg/10ha)																									
	2009	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23											
雨龍	2.8	6.7	0.6	1.0	5.4	2.4	0.3	1.2	2.5	2.1	0.9	0.2	0.7	1.6	0.1											
野幌	21.4																29.5		24.3	16.0	26.4	12.0	11.4	13.0		23.2
苫小牧	6.0	25.8	22.6	23.0	23.0	27.7	17.4	15.5	29.0	19.4	5.2	5.2	2.0	6.3	3.6											
青葉山	79.1					35.5											29.2	19.2	42.4	28.6	23.4	35.3	37.0	28.4	48.2	
小佐渡	12.0	14.1	18.9	10.5	38.1	8.9	23.2	10.9	10.7	11.7	18.5	7.0	14.5	15.0	11.7											
那須高原	5.1	2.3	12.7	3.6	4.8	2.6	7.0	3.8	3.9	11.7	20.8	1.8	29.0	1.7	3.7											
小川	10.6	22.7	10.8	7.4	24.2	12.5	23.7	16.9	25.7	54.0	16.5	22.2	12.7	21.0	9.4											
高原山	5.0				4.1								6.8				6.0									
筑波山	11.1				28								21				7.8									
大山沢	3.8	2.4	4.4	3.2	1.2	2.3	2.0	2.1	3.0	9.1	4.1				1.8	12.1										
秩父	3.5	3.3	10.4	5.8	8.2	18.2	9.2	4.5	10.6	24.5	8.7	5.2	10.5	7.5	10.2											
西丹沢	6.4			4.7						10.0				8.7												
富士	16				6.9								17.0													
函南	8.4				13.6								14.9													
愛知赤津	9.0	10.8	12.5	7.2	8.2	9.1	10.4	3.9	9.1	1.8	7.7	7.9	3.6	1.3	4.4											
上賀茂	23.8	15.6	33.1	23.4	24.7	30.2	22.8	21.1	18.1	23.1	25.2	19.1	26.8	18.6	20.1											
春日山	33				20								21													
半田山	1.7				34																					
臥龍山																										
宮島	115					40											24									
市ノ又	3.2	5.4	4.6	2.7	2.8	8.9	6.3	11.0	7.8	9.0	5.6	15.6	15.9	4.8	19.4											
佐田山	13				9.4											22										
対馬龍良山	6.3				9.5											6.6										
粕屋	15				6.2								13													
椎葉	7.5				12								14													
綾	5.0	3.9	4.3	7.0	6.2	7.3	6.4	6.8	13.5	6.5	3.7	5.6	8.8	6.5												
田野	12.6	13.6	5.6	9.7	8.4	15.8	8.1	9.4	24.3	16.5	6.7	5.2	5.7	12.8	9.4											
屋久島照葉樹林	23				20											25										
屋久島スギ林	2.7				3.6								4.2													
奄美	35.2	37.8	14.0	16.6	18.6	26.7	30.0	25.0	30.3	23.8	26.2	24.3	24.4	30.0	38.5											
与那	39.0	30.4	23.3	20.0	23.0	22.5	30.3	28.0	27.8	23.6	24.3	20.0	26.2	23.0	15.9											
小笠原	4.2				2.3								8.6													

与那サイトでシロハラの記録なし

2019年度の調査で、南西諸島でシロハラが減少していることを紹介しました。沖縄島の与那サイトでは、その後も増減はありつつも毎年記録されていたシロハラが2023年度の越冬期調査では初めて記録されませんでした(図1)。全国では、こちらも年変動があるものの、2009年の調査開始当初と比べて記録個体数が減っているわけではありませ

した(図2)。奄美サイトなど南にあるサイトでの変化について今後の調査でも注目していきたいと思

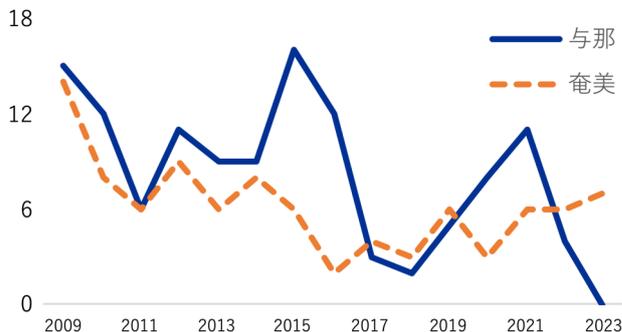


図 1. シロハラの個体数の経年変化(2か所抽出)

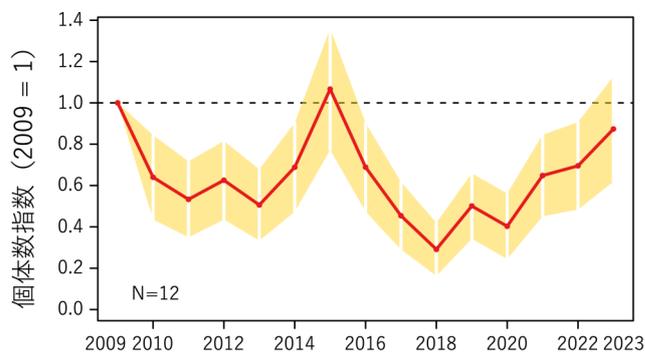


図 2. シロハラの個体数の経年変化(12か所の全記録)

大山沢サイトでのコガラ増加

埼玉の大山沢サイト(標高1300-1500m)で、越冬期のコガラの個体数が増加しています(図3)。ここ数年は近接しより標高の低い秩父サイト(標高1100m-1300m)の個体数と変わらない個体数が記録されています。全国鳥類繁殖分布調査によるとコガラが高標高帯で分布を拡げており、越冬期にも高標高帯に残っているようです。

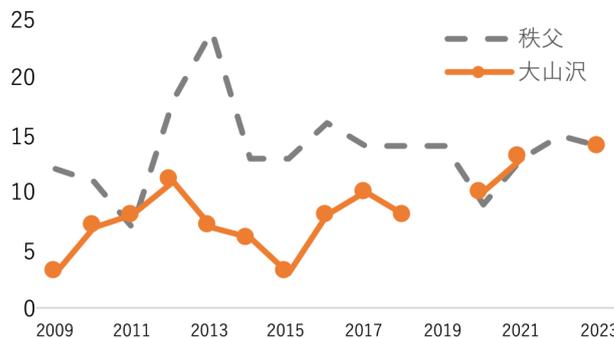


図 3. 大山沢サイトと秩父サイトでのコガラの個体数の経年変化

調査へのご協力ありがとうございました

2023年度越冬期の現地調査にあたっては、井上伸之、岩本富雄、打和侑菜、江崎逸郎、川崎慎二、木村史希、佐藤一博、城崎菜乃、高美喜男、渡久地豊、中村豊、濱田哲暁、平野敏明、柳田和美、梁瀬桐子(敬称略)ほか、多くの方々のご協力をいただきました。皆様に感謝いたします。

調査者・調査協力員の声

青葉山準コアサイト 帆足碧夏
(東北大学 野鳥の会)

モニタリングサイト1000の調査は、一般サイト、コア・準コアサイトともに、全国の調査者の皆さんに調査をお願いして実施しています。宮城県仙台市の青葉山サイトは基本的には5年に1回調査をする準コアサイトですが、東北大学野鳥の会(通称:のとり)の皆さんにお願いして毎年調査を継続してもらっています。今年は調査をしてくださった帆足碧夏さんたちに、調査の様子を紹介していただきました。

調査の場所と様子

調査の場所は、青葉山—東北大学植物園。実はこの植物園、野生動物(イノシシ等)の懸念から、一般には一部分しか開園されていません(R6.6現在)。つまり、この調査実施のため特別に入園許可を取得したモニ1000の調査などでないと、園内全体を見る・歩くことができないのです。



図1 園内の様子

近くには、東北大学川内キャンパスや仙台国際センターなどがありますが、園内に入ればそこは別世界(図1)。モミの木を始めとする常緑針葉樹や常緑広葉樹、落葉広葉樹、その他低層の草木など豊かな自然が広がっています。あちらこちらで鳥の鳴き声も…

のとりでは、各回5名で調査を行いました。園内で2回の調査を行ったわけですが、今回の調査……メジロが多い!! 調査中、思わずみんなで苦笑い。調査前の時点でメジロたちは賑わっていたのですが、想像以上…何とか個体数を数えました!

ただ、このメジロたち、調査1回目は地鳴きが多かったのに対し、調査2回目(1回目の調査から2週間後)はさえずりが多かった印象でした。始めこそ調査方法等に苦戦したものの、鳥の鳴き声が聞こえたとき、その鳥の”動き”を想像してみると個体数や種が分かりやすかったです。

素敵な出会い

調査中には素敵な出会いも数多くありました! 例えば…

- 飛びまわるオオルリ
何やら遠目に青色のものが舞っている…?? 様子を伺っ

てみると、観やすい位置に止まってくれたのは2羽のオオルリでした!(しかも2羽ともオス…!) 観察後、みんな笑顔になっていました。(図2)



図2(左)調査中の皆さん (右)2羽のオオルリのオス

- 枯草散らすヤブサメ
ガサ…ガササ…ガサ…、地面で何か動く音が聞こえたので静かにしていると… ひょっと姿を現してくれたのはヤブサメでした。尾羽が短く、小さく丸いあの姿に一同(特に筆者は)癒されていました。
- コゲラの家族
調査中にコゲラたちが追いかける様子が… どうやら成鳥2羽、幼鳥2羽で遊んでいるようでした。4羽で鳴き合い、飛び交う姿は仲の良い素敵な家族を想像させますね。
- 忍び寄るカモシカ
休憩中に近くの草木から変に揺れる音が… 音の方へ視線を向けると、そこにいたのはまさかのカモシカ…!! (いつ・どこから歩いてきたの…!?) (図3)
特別天然記念物のカモシカ、青葉山周辺で元気に過ごしてくれていると良いですね。



図3 音も無くのっそり歩いてくるカモシカ、その後目の前を通過

調査を行った感想

自然豊かな東北大学植物園で繁殖期の2回の調査を行いました。調査に参加してくれた部員からは、

- 鳥や植物の豊かさを実感できる良い機会だった!
 - こういった調査の参加は初めてで不安だったが、とても楽しかった!
 - 調査ということもあって普段の探鳥の様子とは大分異なり、新鮮で面白かった!
 - 天候に恵まれ、草木の影響もあって涼しく、調査が行いやすかった!
- などの声がありました!

冬(非繁殖期)の調査ではどのように景観が変化し、どのような鳥たちに出会えるのか、楽しみです。

一般サイト候補地&調査員募集

奴賀俊光（日本野鳥の会）

振替サイトの候補地募集

一般サイトは約420サイトを5年かけて調査します。しかし、様々な理由で調査継続が困難になり、調査継続を断念しなければならないサイトもあります。するとサイト数は減る一方になってしまうので、新規サイトを設置し、全国まんべんなく420サイトを配置し、維持できるようにしています。

近年廃止を検討しているサイトと廃止理由を表1に示します。モニタリングなので、同じ場所で継続して調査が実施できることが理想ですが、台風による倒木や土砂崩れ等て道が通行止めになる、長時間の登山が必要で実施が困難などの理由で、年によって調査ができないサイトが生じています。振替サイトの選定においては、こういったアクセシビリティの問題で今後の調査継続が困難になりそうな場所は避けるべきです。そこで、表1のサイトと同じような条件(地域、環境、標高帯)で、アクセスしやすい場所(公共交通機関と徒歩でサイトまで行ける、車でサイト近辺まで行ける等)に新しくサイトを設置したいと考えています。他の条件として、まとまった面積の森林(図1)や草原(図2)環境が存在し、1km以上の調査コースが設定可能で、スポットセンサスの定点を5地点設置可能(隣の定点とは100m以上、可能であれば200m程度離れていること)であることが必要です。また、熊との遭遇がありうる地点では、調査員の安全のため、サイト内の地点間移動を車で可能とすることも条件に加えたいと考えています。必ずしも表に示した県や市でなくてもかまいません。近くなら隣の県や市でも大丈夫です。

本来ならば、事務局で各地に下見に行きサイトを検討して設定すべきところですが、本調査のマンパワーや予算面等で難しく、ぜひ全国の皆さんにご協力いただき、皆さん



図1(右) 森林サイトの環境(例:青森県十和田市 鳶野鳥の森)
(左) 草原サイトの環境(例:静岡県富士宮市 人穴)

表1. 廃止検討サイト一覧

国土10区分: 植物群集を主な指標として、生物分布の境界線、積算気温、年間降水量を用いて国土を10区分した地域 (<https://www.env.go.jp/press/files/jp/2872.html>)

No.	都道府県	市町村	サイト名	環境	国土10区分	標高帯(m)	廃止・振替理由
1	北海道	千歳市	支笏湖野鳥の森	森林	2	500	遊歩道が通行止め。
2	岩手県	二戸市	陸奥福岡	森林	4	750	現地に向かう林道が藪化、路肩の崩落も多くアクセスが困難。ツキノワグマの出没も多発。
3	秋田県	由利本荘市	八塩山	森林	4	250	ツキノワグマの出没が多発。
4	福島県	南相馬市	新屋菅根林道	森林	3	500	令和元年の台風の土砂崩れで通行止め。
5	富山県	中新川立山町	黒部湖	森林	4	2000	アクセスが大変かつ、残雪の影響がある。
6	富山県	富山市	有峰湖	森林	4	1250	ツキノワグマの出没が多発。
7	滋賀県	大津市	比良山	森林	5	1000	アクセスが困難。宿泊施設が閉館。
8	宮崎県	えびの市	陸上自衛隊霧島演習場	草原	8	750	立ち入り禁止が継続している。

からの情報を活用して新しいサイトの候補地を検討したいのです。皆さんのよく知る場所で、一般サイトにふさわしいと思われる場所がありましたら、事務局までお知らせください。おおよその住所、森林か草原か、標高、地図上での移動ルート候補などの情報をわかる範囲でお寄せください。事務局で検討したいと思います。

調査員の募集

鳥に限らずモニ1000全体での課題の一つに、調査員不足があります。調査員の高齢化、調査サイトへのアクセスの悪さ、安全性確保、後継者不足等の理由で現地調査員が不足しています。特に北海道、東北地方、長野、岐阜、富山などの山地のサイトで調査員不足が続いています。そこで、モニ1000の調査員になってもよい、興味がある、という方は、ぜひ事務局までご連絡ください。登録されると、年2回のニュースレターが届くのと、お住まいの近くで調査員がいないサイトがあった場合、調査依頼を打診することがあります。

調査員の条件として、その地域の主要な鳥を識別できること、特に、鳴き声での識別が概ねできることが必要です。森林サイトでは目視による確認が難しいことが大半なので、鳴き声での種識別が主になります。多様な種を完璧に識別できなければいけないということではなく「概ね」できていれば大丈夫です。

調査は、繁殖期と越冬期に2日ずつ行っていただきます(詳細は調査マニュアル参照 https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/line_census.pdf)。交通費込みで各期12000円の謝金をお支払いします。調査地までの距離が100km以上の方には24000円をお支払いしています。フェリーやケーブルカー等を使用する場合は、別途お支払いします。繁殖期の早朝調査のために前泊が必要な場合は、宿泊費もお支払いします。調査員の方には保険もかけております。

以上のような条件ですが、いきなり調査は不安という方も多いと思います。そういう方は、事務局で近くのサイトの調査員をご紹介します、調査員の同意が得られれば、調査に同行することも可能です。事務局が実施するサイトがあれば、調査体験として同行者を若干名募集しますので、興味がある方はご連絡ください。

【お問い合わせ先】
(公財) 日本野鳥の会 モニタリングサイト1000担当
〒141-0031 品川区西五反田3-9-23丸和ビル
Tel: 03-5436-2633 (平日10時~17時)
Fax: 03-5436-2635 Mail: moni@wbsj.org

